

2019年度事業報告

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』各号の記事参照

2019年度は、中村茂第七世永世名人就位式と連珠命名120周年記念式典を同時開催したのが最大のトピックスでした。中村名人はまた、神谷挑戦者を退け現役名人の防衛にも成功しました。つまり、中村名人は現役名人でもあり永世名人でもあるという前代未聞の偉業を成し遂げました。中村名人にはこれまでマスコミへの露出を始めとして様々なメディアに登場して連珠の地位向上にも貢献してもらっております。引き続き連珠界の地位向上を図るため、連珠社としてもさまざまな活動を仕掛けていく予定です。

昨年はまた、SNS等インターネットを通じてアピールができたのも良かったと思います。さらに、ホームページは多くの連珠愛好家と日本連珠社を結ぶ架け橋ともなっているため、毎年充実をさせていきたいと考えています。ご協力いただいた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

一方で、日本連珠社『定款』には第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。2019年7月～8月に、エストニア・タリンで開催された「第16回世界選手権」では、神谷七段が最終局で勝てば優勝という状況まで追い込みましたが、残念ながら3位でした。しかしながら、中山八段が4位、岡部九段が5位、小山六段が7位と上位に食い込み、日本勢の層の厚さを示すことができました。優勝した曹冬を有する中国はやはり強く、今後も中国を中心として動くものと感じさせられました。また、国際交流においては、連珠発祥の国であり情報発信力の強い日本勢が先頭に立って、積極的に交流いただいていると思っています。

連珠の普及においては、各地域で連珠公認指導員を中心として、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続していく予定であり、日本連珠社としても引き続き全面的にバックアップしていきたいと考えております。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

(1) 定時会員総会

- ・2019年5月26日(日)13:30～15:30 於：江東区文化センター4階第1会議室
- ・出席会員数88名(うち委任状68名、会員総数113名、出席率78%)
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、飯尾義弘氏の3名を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・飯尾氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・平成30年度の事業報告について、議決承認された事業報告文を河村理事長が簡単に説明した。
- ・平成30年度の財務諸表等について、亀井監事より処理が適切であったことが報告された。
- ・2019年度事業計画と収支予算案について内容を河村理事長が簡単に説明した。
- ・議事録を全正会員(特別会員・家族正会員を含む、以下同じ)に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2019年7月号に掲載し、平成30年度事業報告・収支決算、2019年度事業計画・収支予算案、役員を選任、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛します。

[理事会に関する事項]

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略） 2019年4月29日(月)～同5月12日(日)
 - ・出席役員 理事13名「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・第4号議案で2019年度の特別表彰に、中村茂氏が選出された。
 - ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「平成30年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 2019年5月26日(日)10:30～16:30（途中昼食休憩と定時会員総会開催のため、12時30分～15時40分迄中断） 於：江東区文化センター4階第1会議室
 - ・出席役員 理事10名（理事総数13名）、監事2名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長・岡部理事・飯尾理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：出席理事10名、監事2名
 - ・第2号議案で、理事体制及び委員会体制の見直しを行った。
 - ・第7号議案で、昇入段規定の見直しを行った。
 - ・第10号議案で、連珠普及のための方策提案の検討を行った。
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2019年7月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 2019年10月27日(日)13:00～15:00 於：江東区文化センター
 - ・出席役員 理事10名（理事総数13名）、監事2名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長・岡部理事・飯尾理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：出席理事10名、監事2名
 - ・第1号議案で、日本連珠社本社住所の変更が提案され、賛成多数により可決された。
 - ・第2号議案で、連珠世界記事の著作権について検討され、今後検討グループを構成して具体案の作成に進むことが了承された。
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2019年12月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会（定款第38条決議の省略） 2020年2月21日(金)～同2月29日(土)
 - ・出席役員 理事13名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）に配布した。前年度とほぼ同内容の2020年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を日本連珠社ホームページに掲載するため、議事詳細を割愛します。

[委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
 - ・河村事務局長指示の下、事務局作業の一環として、盤野紙や書籍など普及資料の発送手配、電話での問い合わせには可能な範囲で回答し、円滑な総務活動を行なった。
 - ・河村理事長指示の下、理事として内閣府提出資料や法的文書入手の一部を実行した。
- (2) 普及推進委員会
 - ・東京の拠点として東京連珠会を毎月実施した。2020年3月で221回を数える。
 - ・2018年度に作成した「級位認定規定、級位認定ガイドライン」を普及活動の中で活用した。
 - ・全国各地で、定例会をはじめ公式戦を行うことにより、連珠の普及活動に努めた。
 - ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠

2019年度事業報告

指導ボランティア活動を継続実施した。また、囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェに訪問し指導対局などを通じて宣伝を行い、知的文化の向上に寄与貢献した。

- ・他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、ゲームマーケットをはじめとする各種イベントへ出展し、普及推進につなげた。
- ・全国各地で自治体・自治会などが主催するイベントに出展し連珠の認知度をアップさせた。
- ・小学校の土曜教室、クラブ活動で連珠教室を開催し普及推進につなげた。
- ・SNS上で詰め連珠他の情報発信を行い、「連珠」の認知度を上げた。
- ・町内会のお祭り、児童館のイベントなどで 連珠大会開催を考えている方用に 「簡単連珠大会開催ツール」を作成しHPで公開した。
- ・各種競技会などで配るPR用グッズ（日本連珠社名入れボールペン）を作成し普及活動で活用した。
- ・普及活動を連珠世界誌で報告した。

(3) 財務委員会

- ・河村理事長指示の下、財務委員間で協議し、収支決算書及び財務諸表を作成した。
一方、より緻密な財務管理のため、2020年度予算(案)も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。
- ・収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
- ・各委員会活動の精算や理事会、総会、名人戦の精算を遅滞なく行った。

(4) 広報委員会

- ・有志の協力を得て、名人戦五番勝負の中継を行なった。
- ・名人戦や国際大会の開催にあたり、マスコミ、他競技、桑名七盤勝負などの関係者と連絡を取り、取材対応、広報活動を行なった。
- ・Facebook、Twitterでの情報提供を行なった。
- ・ゲームマーケットをはじめとする各種イベントへ出展した。
- ・「連珠 平成の名人戦史」を発刊した。

(5) 国際委員会

- ・RIF会長のヘニングソン氏と連携し、連珠の諸問題について議論し、解決を図った。
- ・5月に開催される第13回チーム世界戦に対し、新型コロナウイルスの影響を鑑み選手団を派遣しないことを決定した。

(6) 機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、766号から777号まで遅滞なく発行した。
- ・事務局と連携し、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
- ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事を掲載した。

(7) メディア委員会

- ・連珠社ホームページを維持するとともに改善・充実を行った。具体的には、公開情報の最新版維持とともに、名人戦A級リーグ戦の速報を始めとする主要棋戦の結果報告と過去の結果情報の充実、各種棋戦やイベントのカレンダー機能やトップページでの広報、詰連珠問題の毎週提供、「連珠世界」等に掲載された連珠講座の転載、あるいはWebページ向けに編集しての毎週提供を行った。
- ・組織としての連絡体制を支援するメール環境の維持・充実を行った。具体的には、メーリングリストや委員会メールアドレスの更新・維持を行った。

(8) 珠規審議委員会

- ・四珠交替打ちの実施状況を確認し、新たな開局規定の必要性を検討した。
- ・世界選手権開催中や、日々のメールやSNSでの連絡において、各国の棋士と意見交換を行なった。

2019年度事業報告

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請があり次第、日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく段免許状の発行と機関誌上での発表を行った。
2019年度に於いては、理事会で審議すべき例外事案の発生はなかった。
- ・2019年度昇入段者数は下表の通り。近年、昇入段申請の減少傾向が続いていたが、2019年度は7名の初段申請があった。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	永世 名人	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	合計
2019年度	1	0	1	1	1	2	1	2	2	7	18
2018年度		0	0	1	0	2	1	0	1	4	9
2017年度		0	1	1	1	1	3	1	0	3	11
2016年度		0	1	2	4	2	2	5	2	3	21
2015年度		1	0	1	0	4	4	1	3	5	19

(10) 名人戦運営委員会

- ・第57期名人戦挑戦者決定リーグ戦を、2019年9月に静岡県焼津市の
〈西焼津セントラルホテル〉で実施した。
- ・同名位挑戦手合い5番勝負を、名人戦運営委員の協力で滞りなく実施した。
挑戦者決定リーグ、挑戦手合い共、インターネットでのライブ中継は好評であった。
- ・第56期名人中村茂九段が2勝1敗1分で、挑戦者神谷俊介八段を破り、全日本連珠名人位（第57期）を獲得した。
- ・第58期名人戦予選はコロナウィルス感染拡大防止に留意しながら準備を進めている。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に棋譜報告のあった結果をRIF（国際連珠連盟）に報告して、国際レーティングに反映させた。
- ・東日本地区の情報収集には記録委員丸田浩貴五段に協力を頂いた。

(12) 誌連珠通信戦委員会

- ・通信戦：106回・107回通信戦を実施し、104回・105回の講評を連珠世界に掲載した。
公式戦の開局規定変更を反映し、108回より開局規定の変更を行うこととした。
- ・誌連珠：2018年に発表された全ての誌連珠関連の創作物を対象に、第13回誌連珠大賞の選定を行い、誌上表彰及び作品賞に対しカップの呈賞を行った。
第44回四追い作品コンクール、第40回限珠案コンクールを実施した。また、月例誌連珠、天狗道場、特別昇入段テストを実施した。

(13) 特別表彰制度

- ・2019年度は、中村茂氏（東京都西東京市）を選出し、特別表彰記念品と表彰状の手配を遅滞なく実行した。